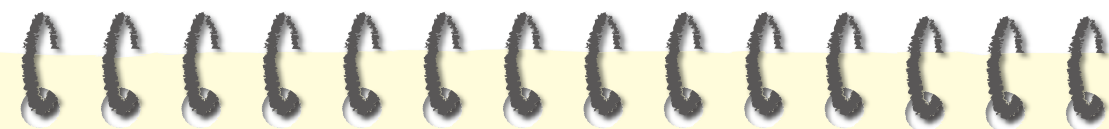


春のお彼岸のころになると薄曇色だった空にも少し青さが戻り、陽光にも力強さを感じるようになります。雪で覆われていた地面が顔を出しはじめ、陽当たりのよい土手の斜面から摘んできたフキノトウの天麩羅が食卓を飾るのもこのころです。

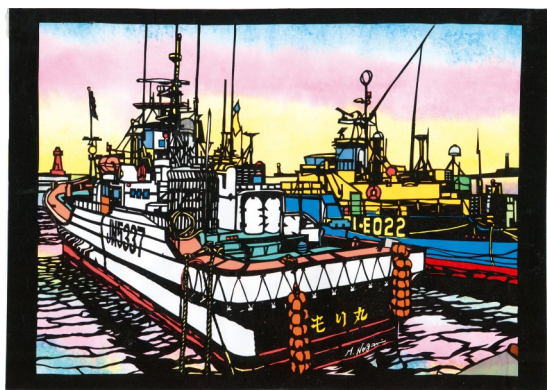
やがて笛や太鼓の音色に合わせて踊る三体一組の獅子が街のあちこちで、その年の豊作と家内安全を祈って廻る姿を見ることがあります。この彼岸獅子の姿を見ることで何とか無事に冬を過ごせた喜びと、新緑が芽吹き、さまざまな花が一斉に咲き誇る春が近づいていることに胸を弾ませる会津で生きる人たちの気持ちを描いてみました。

二十数年前の事故によって頸椎損傷による四肢麻痺になってしまったため、口筆で描いているので中々思うような表現はできないのですが、これからも妻の協力を得ながら精進したいと考えています。



## 今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



### 野上政義「海明けを待つ」

作品はご友人からいただいた船の写真を基につくられました。写真から海明けを待つ船をイメージし、何度も紙を切り出し構図を決定しました。絵の配色も何度も試作されては周りの利用者様やスタッフに意見を聞き、試行錯誤を繰り返していました。作品づくりに余念がありません。握力の低下から、版画づくりから切り絵に切り替え、今年からは水彩画に切り替え、目標を次に見据えているそうです。ご自分の変化を受け入れながら、常に前を見て、作品づくりに取り組む姿は素敵です。次の作品も楽しみにしています。(通所施設 OT: 高橋奈津美)